4　体育健康プラン

横浜市立日野南中学校　平成２９年度　体育・健康プラン

～体育・健康に関する指導の全体計画～

１．中期学校経営方針

（１）学校経営中期取組目標

学 校 経 営 中 期 取 組 目 標
○「チーム日野南」として全職員で魅力ある学校づくりを目指します。 ・新たな学習指導要領を見据えて、本校の状況に合わせたカリキュラム編成を進めます。 ・小中一貫教育を推進し、9年間を見通したカリキュラムの構築を目指します。 ・アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた主体的・能動的な学習活動の展開する指導に取り組みます。 ・認め合い、支え合って互いに高めあう子どもの育成を目指した人権教育を展開します。 ・地域との協働事業を通して、コミュニケーション力を高め、地域社会に貢献できる生徒を育てます。

（２）体育・健康に関する指導の重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野		取 組 目 標	具 体 的 取 組
健やかな体		自身や周囲の健康や安全について課題に気づき、主体的に解決する力を育てる。	健康安全・体育的行事や旅行的行事などの事前学習や振り返りで、自他の健康や安全を守る姿勢を意識させます。新体力テストを通して、自己の体力を知り、課題を解決するための実践力を身につけ、運動に対する理解を深めるとともに、運動に親しむ資質や能力を育てます。
担当	保健体育科・保健指導部		

２．体育健康に関する実態把握

（１）体育・健康に関する実態

・体格は身長においては全国平均と変わらない数値であるが、体重においては比較的低い数値を示している。
・朝食の摂取率は高い。また、１日６時間以上の睡眠時間を確保できている生徒がほとんどである。
・体を動かすことに興味関心を持ち、体育の授業を楽しみにしている生徒が多い。
・中学校入学時点で運動経験の乏しい生徒が多くおり、体を動かすことに抵抗感や自信の無さを感じている生徒も多くいるが、授業には着実に取り組むことができている。
・部活動加入率が高く、運動に日常的に取り組む生徒が多くいる。
・健康や安全に対する理解度はそれほど高くなく、傷病による保健室の利用状況が多い。

（２）体力の概要と要因の分析

新体力テストの結果から、すべての学年の体力合計点は県平均を上回っている。体育の授業や運動部活動での活動に意欲的に参加する生徒が多くみられる成果だと考えられる。一方、長座体前屈の柔軟性においては、全国平均を大幅に下回っている。力強い動きや、俊敏性といったそのスポーツの特性においてのトレーニングを積み重ねている中で、その後のケアを軽視しがちであるのか？また、生活環境の変化により、運動に親しむ生徒や活動が少なくなってきているのではないかと考える。

３．体育・健康に関する具体的取組

教　科

《体育科・保健体育科での取組》

運動量の確保を１つのテーマとして、体育の時間を通して発育期の体力向上につなげていく。また、グループでの活動を通して、自ら考え、行動できる力を育てていく。

《他教科での取組》

家庭科では、食教育との関連から、運動と栄養の関係や重要性を学ばせる。

道徳・特活・総合

・体育祭では、生徒自らが企画に参加し、生徒全員が楽しく運動に親しむ機会を作る。
・保健委員会と生活委員会が協力し、薬物と健康に関するキャンペーン活動を実施する。
・マリノスの協力を得て、食育の重要性を理解する講演会を実施する。
・様々な機会を通して、安全に対する感覚を高める刺激を与える。

課外活動

・運動部活動の更なる推進を行う。
・保健委員会による健康・安全・体力の向上に関する保健的イベントを実施する。
・「保健便り」を活用して、保健・健康に関する情報を家庭と共有する。

平成２９年度　日野南中学校　体力向上１校１実践運動

《名　称》体育的活動の充実
《ねらい》運動の機会の確保、運動に親しむ機会の設定、体育行事の企画・運営、新体力テストの活用
《内　容》体育的活動を生徒が企画・運営し、内容と取組の充実を図り、運動の楽しさを味わわせる。新体力テストを活用し体力の向上を図る。
（行事例）通年：学級レク　前期：新体力テスト、体育祭　後期：学年単位での球技大会、
●指　標：①行事後の振り返り「事前取組」「満足度」
②アンケート調査「運動に関する意識調査」「生活実態調査」